

# 令和8年用うめ病害虫防除基準

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- この基準は、令和7年10月1日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用回数	散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
① 発芽前 (3月中旬)	縮葉病	1. 水 (90ℓ)			350ℓ	1. 品種や系統によって発芽、開花期が異なることがあるので、適期防除に努める。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)					
		3. 石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ)	発芽前	—			
② 落花直後	黒星病 灰色かび病 環紋葉枯病 灰星病 すす斑病	1. ベルクート水和剤 2,000倍 (50g)	30日前まで	3回以内	300ℓ	1. ベルクート水和剤は、りんご・西洋なしにサビ果等の薬害が出るので注意する。 2. ホウ素欠乏の症状がある場合は、ヨーヒB 5 1,000倍を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	かいよう病	2.マイコシールド 1,500倍 (66g)	21日前まで	4回以内			
	アブラムシ類	3. ウララDF 2,000倍 (50g)	7日前まで	2回以内			
かいよう病 重症点防除 ③ 前回散布 7日後 (5月上旬)	かいよう病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			400ℓ	1. ホウ素欠乏の症状がある場合は、ヨーヒB 5 1,000倍を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. トップジンM水和剤 1,500倍 (66g)	21日前まで	3回以内			
		3. マイコシールド 1,500倍 (66g)	21日前まで	4回以内			
④ 5月中旬 (5月15日頃)	黒星病 アブラムシ類 ケムシ類	<b>黒星病重点防除</b>				1. この時期から黒星病の胞子飛散盛期に入るので、6月中旬まで散布間隔を10日以上あけないよう定期散布に努める。	
		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			400ℓ	1. この時期以降日中の高温時の散布はさける。(25℃以内) 2. 前年黒星病の多発園地ではサルファーゾルに替えて、スコア顆粒水和剤3,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。 3. かいよう病が多い園では、マイコシールド1,500倍(21日前まで、4回以内)を散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. サルファーゾル 500倍 (200mℓ)	発病前～発病後	—			
⑤ 5月下旬 (5月25日頃)		3. マブリック水和剤20劇 4,000倍 (25g)	21日前まで	2回以内			
黒星病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			400ℓ	1. コスカシバの防除には、スカシバコンLを10a当り40～100本を設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ	
アブラムシ類 ハマキムシ類	2. サルファーゾル 500倍 (200mℓ)	発病前～発病後	—				
アブラムシ類 ハマキムシ類	3. ダイアジノン水和剤34劇 1,000倍 (100g)	21日前まで	2回以内				

発行：JAさがえ西村山・谷沢梅生産組合

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用 回数	散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
⑥ 6月上旬 (6月5日頃)		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)					散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒星病 すす星斑病 灰星病	2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	7日前まで	2回以内	400ℓ		
	アブラムシ類 カイガラムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤劇 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内			
⑦ 6月中旬 (6月15日頃)	黒星病 すす星斑病 (灰星病)	1. オーシャインフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. アブラムシ類の発生が多い園では、スタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑧ 7月中下旬 (収穫後)	黒粒枝枯病 黒星病 環紋葉枯病	1. トップジンM水和剤 1,500倍 (66g)	21日前まで	3回以内		1. 黒粒枝枯病の被害枝は見つけ次第剪除し、土中深く埋没する。 2. カイガラムシ類の発生が多い園では8月上旬にアプロードフロアブル1,000倍(7日前まで、2回以内)を枝幹に十分かかるようついに散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 ハマキムシ類	2. スミチオン乳剤 1,000倍 (100mℓ)	14日前まで	2回以内	400ℓ		
	ハダニ類	3. ダニオーテフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	1回			
【特別】 落葉後		1. 水 (90ℓ)				1. 例年、融雪が遅いところでは落葉後散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			350ℓ		
	カイガラムシ類 ハダニ類 越冬病害虫	3. 石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ)	発芽前	—			

### 耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。
カイガラムシ類	1. 休眠期に粗皮削り、高圧水による洗流しやブラシ掛けを行う。 2. 見つけし大い捕殺する。

### うめ施肥基準 (成木：10a 当り)

品種・目標収量	肥料名	施肥量 (kg)	施肥時期	N	P	K	備考
谷沢梅 1,500kg	燐硝安加里S248 (わかみどり)	10kg	収穫直後	2.0	0.4	0.8	うめの施肥は収穫後できるだけ早く行い、分解・吸収させ、花芽の充実と貯蔵養分の確保に努めましょう。※若木については新梢の停止が遅れると、冬の凍害による幹割れからくる胴枯病の併発が懸念されるので、極力減肥し、有機物や土壤改良剤の施用に力点をおきましょう。
	フレッシュフルーツ有機70	80kg	7月下旬	8.0	4.0	1.6	
	合計			10.0	4.4	2.4	